



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2018年(平成30年)7月5日号 No.1764

目次

■ ロシアのごみ処理・リサイクル戦略	1
■ 統計速報	5
2018年1～5月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／5	
2018年1～5月の日ロ貿易／6	
■ トピックス	7
モンゴルで合弁リース会社向け融資保険の引受／7	
ロシアのサハ共和国で協力覚書を締結／7	
クレアHD、ロシアで業務提携に向け基本合意／8	
温室野菜工場をモンゴルに輸出／8	

ロシアのごみ処理・リサイクル戦略

はじめに

取り上げるのがやや遅くなったが、ロシアでは2018年1月25日付の連邦政府指令により、「2030年までの生産・消費廃棄物処理・リサイクル・無害化産業発展戦略」が採択されたので、今回の速報ではこの戦略の中で示されている数値目標を紹介することにしたい。

現地『エキスパート』誌(2018年4月2-8日号、No.14)にロシアのごみ処理問題についての特集記事が掲載されているが、その中に掲げられていた図表1、2を見ると、ロシアのごみ処理の後進性が浮き彫りとなる。ロシアは諸外国と比べて、排出された廃棄物のうちリサイクルや焼却処分される比率が小さく、大部分が埋立てられていることが分かる。しかも、ロシアでは、「埋立て」と言っても、単に野ざらしのままになっているケースが少なくない。

ロシアでは、ごみ処理はきわめて差し迫った社会・政治問題になりつつあり、プーチン政権としても対応が待ったなしの状況である。現に、プーチン大統領は4期目の政策課題を列挙した5月の大統領令でも、この問題への迅速な対応を政府に指示している。

1月に採択された「2030年までの生産・消費廃棄物処理・リサイクル・無害化産業発展戦略」では、このような現状を踏まえ、図表3に見るように、インフラ整備を通じた廃棄物処理の近代化を描いている。当然、これは日系企業を含む外国企業にとってのビジネスチャンスを意味するが、図表3に見るように、ロシアが関連設備を国産化していきたいという意向を有していることは、留意すべきだろう。むろん、廃棄物処理の近代化は、環境問題だけでなく、図表4に見るように、リサイクルを通じた産業の効率化・省資源化にも繋がると期待されている。